

ばんしん景況レポート

〒670-0962
姫路市南駅前町110番地
播州信用金庫

照会先 経営企画部
TEL 079-280-3398(直通)
FAX 079-281-4667

中小企業景気動向調査 2025年7月～9月期 NO. 80

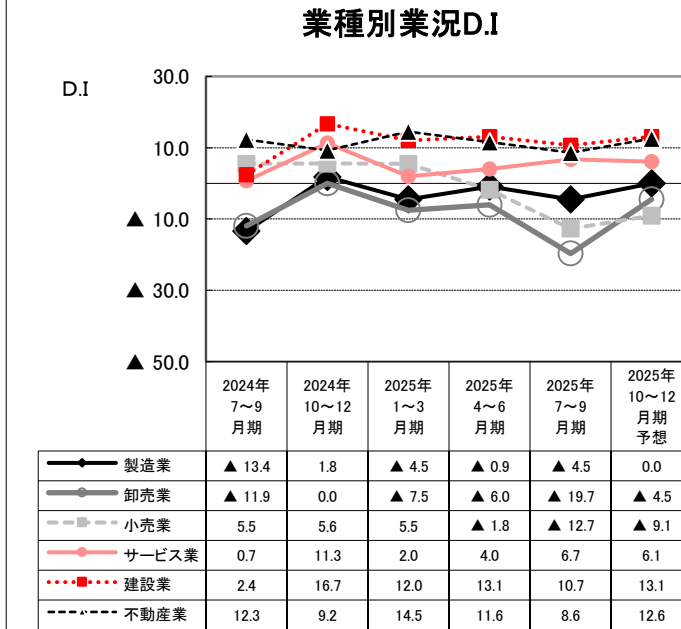
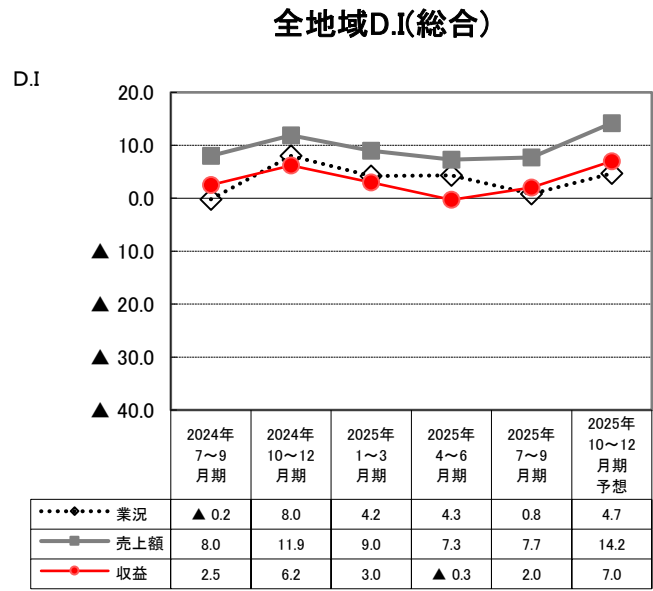
【概況】 2025年7月～9月期の業況は0.8、前期比 3.5ポイントマイナスと前期を下回りました。
来期は両地域とも上向く見通しです。

景気動向調査主要指数D.I（総合）

項目	全地域			姫路地域			神戸地域		
	2025年4月～6月期	2025年7月～9月期	2025年10月～12月期予想	2025年4月～6月期	2025年7月～9月期	2025年10月～12月期予想	2025年4月～6月期	2025年7月～9月期	2025年10月～12月期予想
業況	4.3	0.8	4.7	4.0	▲ 2.8	2.8	4.7	5.1	6.9
売上額	7.3	7.7	14.2	5.9	3.7	12.7	9.1	12.4	16.0
収益	▲ 0.3	2.0	7.0	▲ 3.4	▲ 0.6	5.0	3.3	5.1	9.5
販売価格	22.5	19.7	16.7	22.0	22.5	18.1	23.2	16.4	15.0
仕入価格	40.3	32.8	28.5	44.0	34.9	29.9	36.0	30.3	26.7
在庫	0.0	0.0	0.7	2.4	0.4	3.2	▲ 3.0	▲ 0.5	▲ 2.6
資金繰り	▲ 2.2	0.0	15.4	▲ 2.8	▲ 1.2	11.5	▲ 1.5	1.5	20.1
人手	▲ 22.7	▲ 23.5	▲ 24.7	▲ 25.3	▲ 28.4	▲ 30.3	▲ 19.6	▲ 17.8	▲ 18.2
設備状況	▲ 9.0	▲ 8.2	▲ 9.1	▲ 9.4	▲ 10.5	▲ 11.6	▲ 8.4	▲ 4.8	▲ 5.3

2025年7月～9月期実績
《 サービス業で上向く 》
当期の全地域の全業況D.Iは0.8、前期比3.5ポイントマイナスと前期を下回りました。
全地域の業種別では、サービス業において上向きました。

2025年10月～12月期見通し
《 両地域とも上向く見通し 》
来期の全地域の全業種予想業況D.Iは4.7、当期比3.9ポイントプラスと回復に向かう見通しです。
全地域の業種別では、サービス業以外の業種において上向く見通しです。地域別では、両地域とも上向く見通しです。



調査要領

1. 調査目的

当金庫営業地域内の景気動向を把握し、お取引先の経営者の皆様に景気に関する情報提供をおこない、経営にお役立ていただくことを目的としています。

2. 調査時期

2025年9月上旬

3. 調査対象期間

2025年7月～9月期実績（2025年4月～6月期実績との比較）

2025年10月～12月期予想（2025年7月～9月期実績との比較）

4. 調査方法

調査員による「面接聞き取り調査」

5. 分析方法

本調査はD.I（ディフュージョン・インデックス）による分析

D.Iとは、景気が「良い」、「増加」、「上昇」、「過剰」、「楽」と回答した企業の割合から「悪い」、「減少」、「下降」、「不足」、「苦しい」と回答した企業の割合を差し引いた構成比差から景気の方角を判断する指数です。

6. 調査地域

姫路地域・・・姫路地区（姫路市）

東播地区（加古川市・高砂市・三木市・稲美町）

西播地区（赤穂市・相生市・たつの市・太子町）

北播地区（加西市・福崎町）

神戸地域・・・神戸地区（神戸市・西宮市・尼崎市・宝塚市・伊丹市）

明石地区（明石市・神戸市西区）

※調査地域については、上記地区に所在する当金庫支店を基準とした地域設定であります。

調査先および回答状況

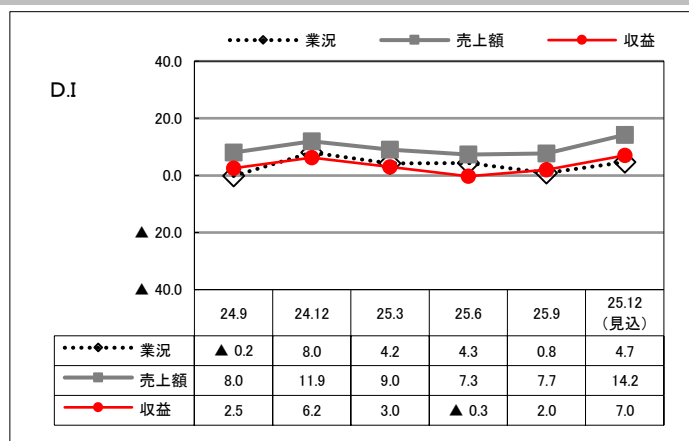
	依頼数	回答数	回答率
製 造 業	112	112	100.0%
卸 売 業	67	67	100.0%
小 売 業	55	55	100.0%
サ ー ビ ス 業	151	150	99.3%
建 設 業	84	84	100.0%
不 動 産 業	131	131	100.0%
合 計	600	599	99.8%

本レポートは、標記時点における情報提供のみを目的としたものであります。したがって投資等や施策実施に関する最終決定はご自身の判断でなされるようお願いいたします。また、本レポート掲載資料については、当金庫が信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、その情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

1. 業況

全業種における業況D.Iは0.8、前期比3.5ポイントマイナス（前年同期比+1.0）と前期を下回りました。業種別では、サービス業において上向きました。

来期予想D.Iは4.7、当期比3.9ポイントプラスと回復に向かう見通しです。業種別では、サービス業以外の業種において上向く見通しです。



2. 売上額

全業種における売上額D.Iは7.7、前期比0.4ポイントプラス（前年同期比 ▲0.3）と好調さを強めました。業種別では、製造業、卸売業、不動産業において低迷しました。

来期予想D.Iは14.2、当期比6.5ポイントプラスとさらに堅調に推移する見通しです。業種別では、サービス業以外の業種において上向く見通しです。

3. 収益

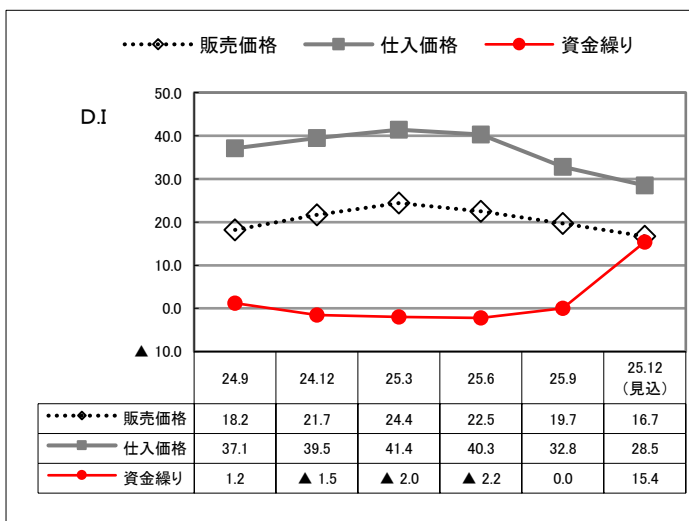
全業種における収益D.Iは2.0、前期比2.3ポイントプラス（前年同期比 ▲0.5）と好転しました。業種別では、サービス業、建設業において改善しました。

来期予想D.Iは7.0、当期比5.0ポイントプラスと堅調に推移する見通しです。業種別では、全業種において改善する見通しです。

4. 資金繰り

全業種における資金繰りD.Iは0.0、前期比2.2ポイントプラス（前年同期比 ▲1.2）と窮屈感を脱しました。業種別では、卸売業、小売業において厳しさが増しました。

来期予想D.Iは15.4、当期比15.4ポイントプラスと容易になる見通しです。業種別では、卸売業以外の業種において和らぐ見通しです。



5. 販売価格

全業種における販売価格D.Iは19.7、前期比2.8ポイントマイナス（前年同期比+1.5）と上昇幅が縮小しました。業種別では、卸売業、不動産業において上昇しました。

来期予想D.Iは16.7、当期比3.0ポイントマイナスとさらに上昇幅が縮小する見通しです。業種別では、サービス業において上昇する見通しです。

6. 仕入価格

全業種における仕入価格D.Iは32.8、前期比7.5ポイントマイナス（前年同期比 ▲4.3）と上昇幅が縮小しました。業種別では、全業種において低下しました。

来期予想D.Iは28.5、当期比4.3ポイントマイナスとさらに上昇幅が縮小する見通しです。業種別では、全業種において低下する見通しです。

7. 在庫

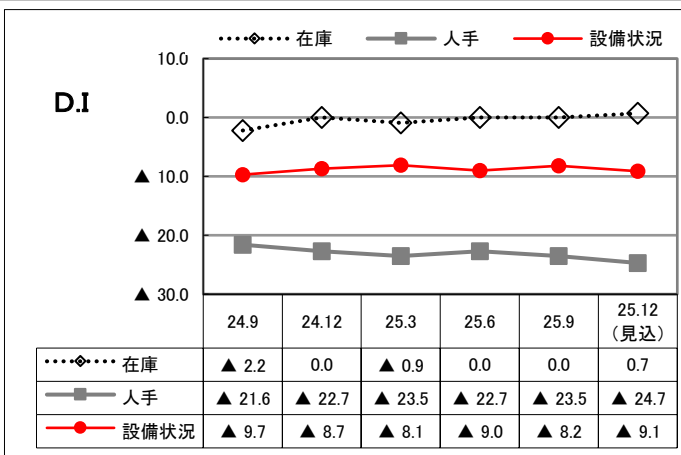
全業種における在庫D.Iは0.0、前期と横ばい（前年同期比+2.2）で推移しました。業種別では、不動産業において緩和しました。

来期予想D.Iは0.7、当期比0.7ポイントプラスと在庫が積み増す見通しです。業種別では、建設業、不動産業において緩和する見通しです。

8. 人手

全業種における人手D.Iは▲23.5、前期比0.8ポイントマイナス（前年同期比 ▲1.9）と不足感が強まりました。業種別では、卸売業、小売業において不足感が和らぎました。

来期予想D.Iは▲24.7、当期比1.2ポイントマイナスとさらに不足感が強まる見通しです。業種別では、小売業、サービス業において緩和する見通しです。

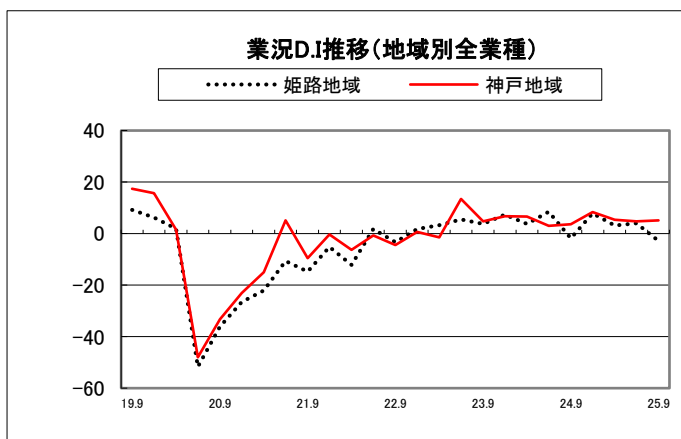
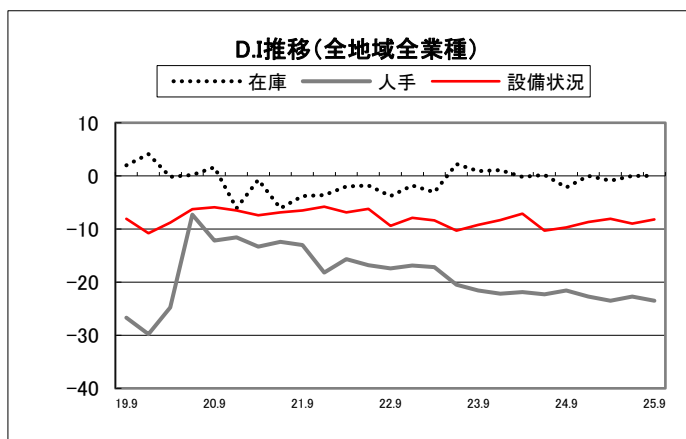
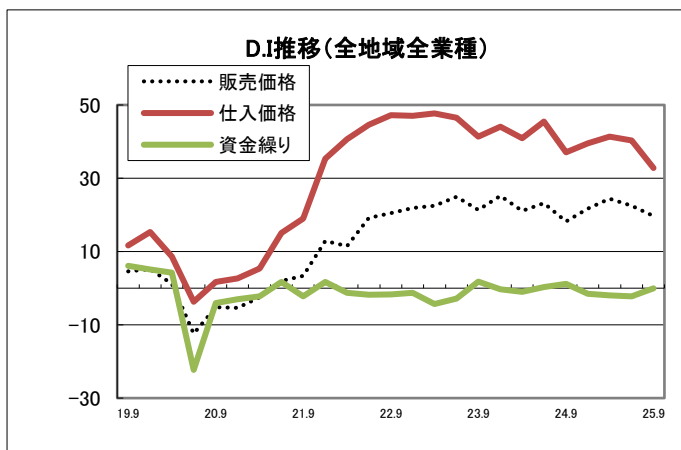
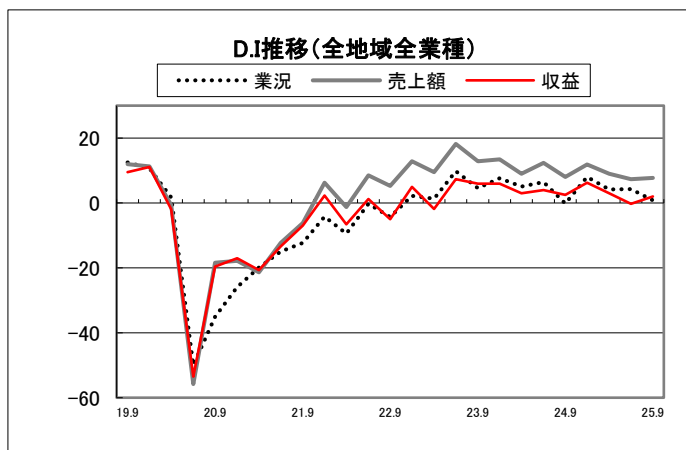


9. 設備状況

全業種における設備状況D.Iは▲8.2、前期比0.8ポイントプラス（前年同期比+1.5）と改善しました。また、設備投資を行ったと回答した企業の割合は30.0%、前期比▲0.8ポイントマイナス（前年同期比▲1.7）と減少しました。また業種別では、小売業、建設業において設備投資を行った企業の割合が増加しました。

来期に設備投資を行うと回答した企業の割合は33.5%、当期比増加3.5ポイントプラスと増加する見通しです。

過去D.I推移



1. 業況

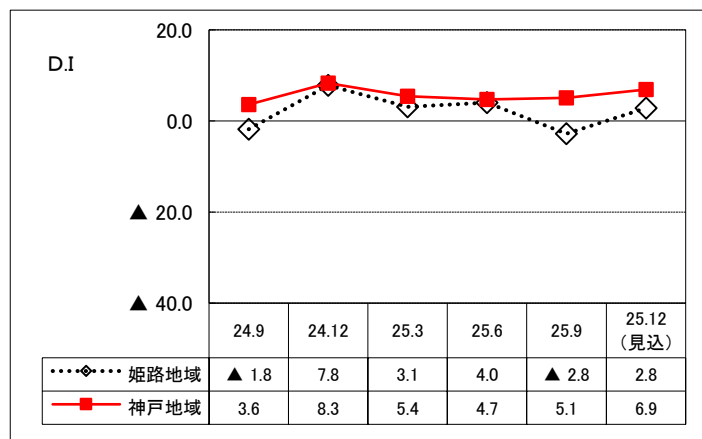
姫路地域の業況D.Iは▲2.8、前期比6.8ポイントマイナス (前年同期比 ▲1.0)と厳しさを強めました。

来期予想D.Iは2.8、当期比5.6ポイントプラスと好転する見通しです。

神戸地域の業況D.Iは5.1、前期比0.4ポイントプラス (前年同期比+1.5)と前期を上回りました。

来期予想D.Iは6.9、当期比1.8ポイントプラスとさらに回復に向かう見通しです。

当期の地域別業況は、姫路地域では厳しさを強め、神戸地域では前期を上回りました。



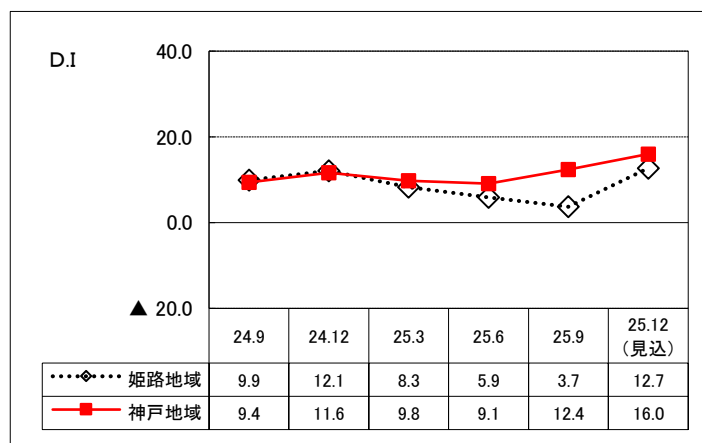
2. 売上額

姫路地域の売上額D.Iは3.7、前期比2.2ポイントマイナス (前年同期比 ▲6.2)と増加幅が縮小しました。

来期予想D.Iは12.7、当期比9.0ポイントプラスと堅調に推移する見通しです。

神戸地域の売上額D.Iは12.4、前期比3.3ポイントプラス (前年同期比+3.0)と好調さを強めました。

来期予想D.Iは16.0、当期比3.6ポイントプラスとさらに堅調に推移する見通しです。



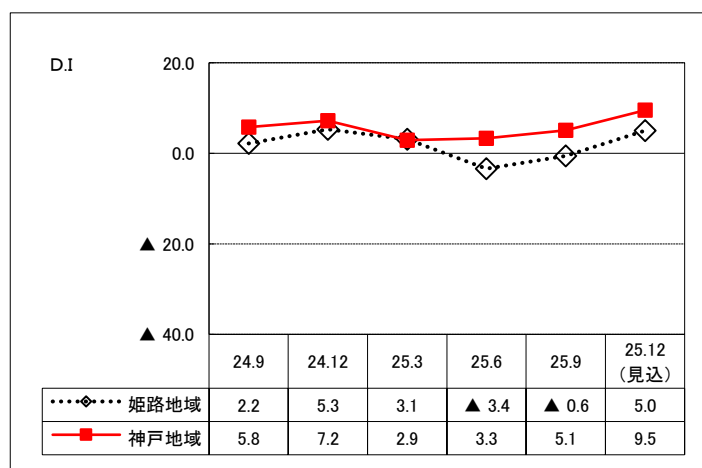
3. 収益

姫路地域の収益D.Iは▲0.6、前期比2.8ポイントプラス (前年同期比 ▲2.8)と持ち直しました。

来期予想D.Iは5.0、当期比5.6ポイントプラスと好転する見通しです。

神戸地域の収益D.Iは5.1、前期比1.8ポイントプラス (前年同期比 ▲0.7)と好調さを強めました。

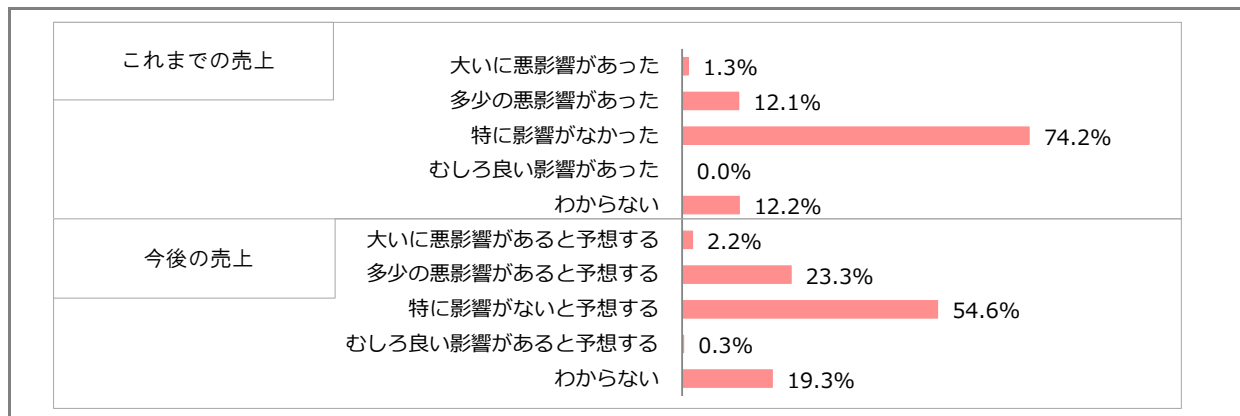
来期予想D.Iは9.5、当期比4.4ポイントプラスとさらに堅調に推移する見通しです。



不透明感が増す経済社会情勢と中小企業経営

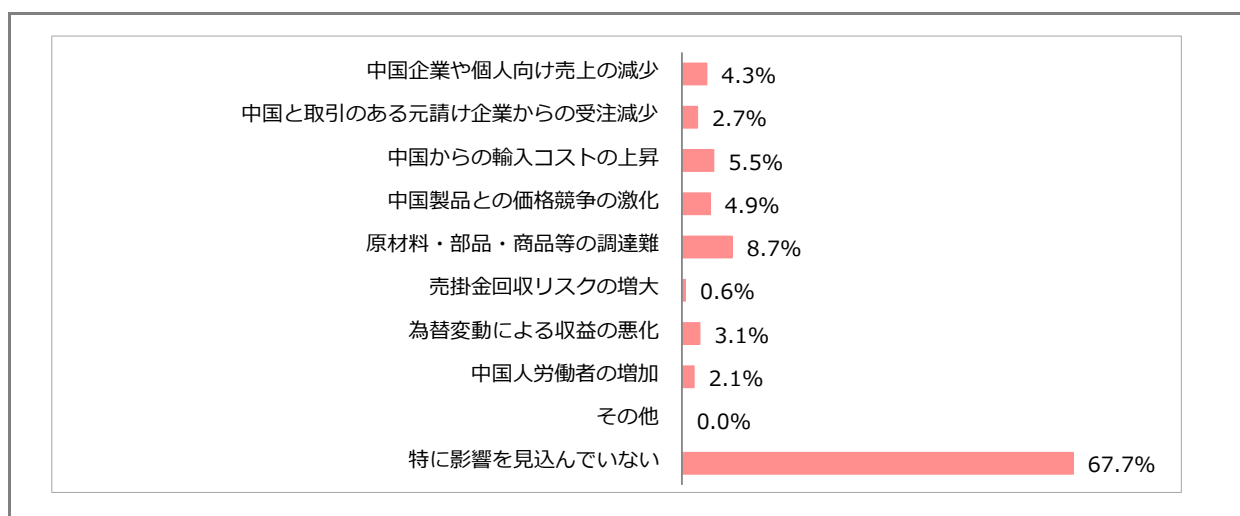
回答により合計が100%にならない場合があります。

問1 トランプ大統領就任後、米国の経済社会政策（関税等）には不透明感が増しています。こうした動きを受けて、貴社の売上にこれまで影響がありましたか。次の1～5の中から1つ選んでお答えください。また、今後の売上に影響があると予想しますか。次の6～0の中から1つ選んでお答えください。



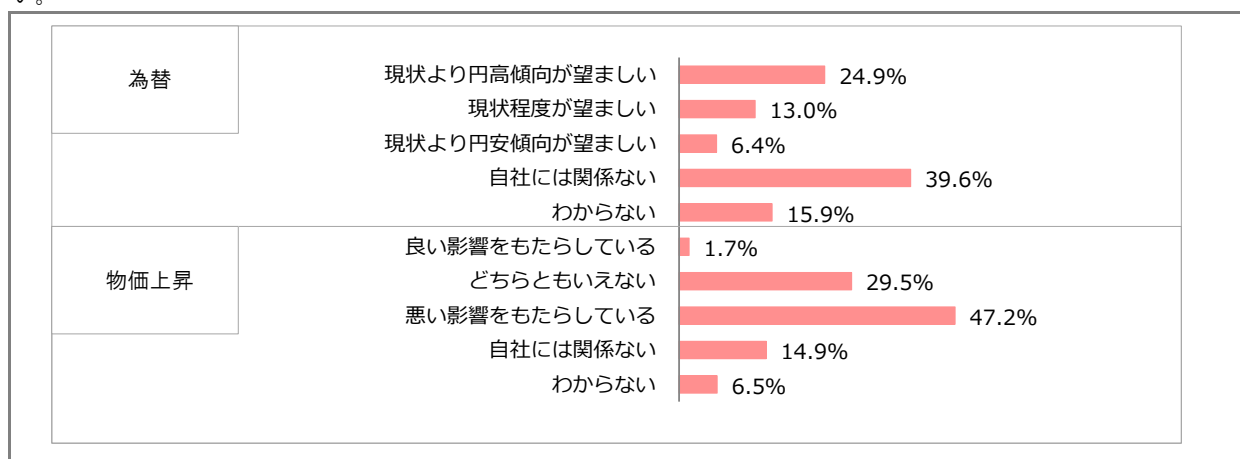
これまでの売上について「特に影響がなかった」が最多回答、
今後の売上については「特に影響がないと予想する」が最多回答でした。

問2 中国経済の減速が懸念されていますが、貴社に対して間接的な事象も含めてどのような影響が見込まれますか。あてはまるものを次の1～0の中から3つ以内で選んでお答えください。



中国経済の減速が貴社に対してどのような影響を及ぼすかについて「特に影響を見込んでいない」が最多回答、
次いで「原材料・部品・商品等の調達難」という結果でした。

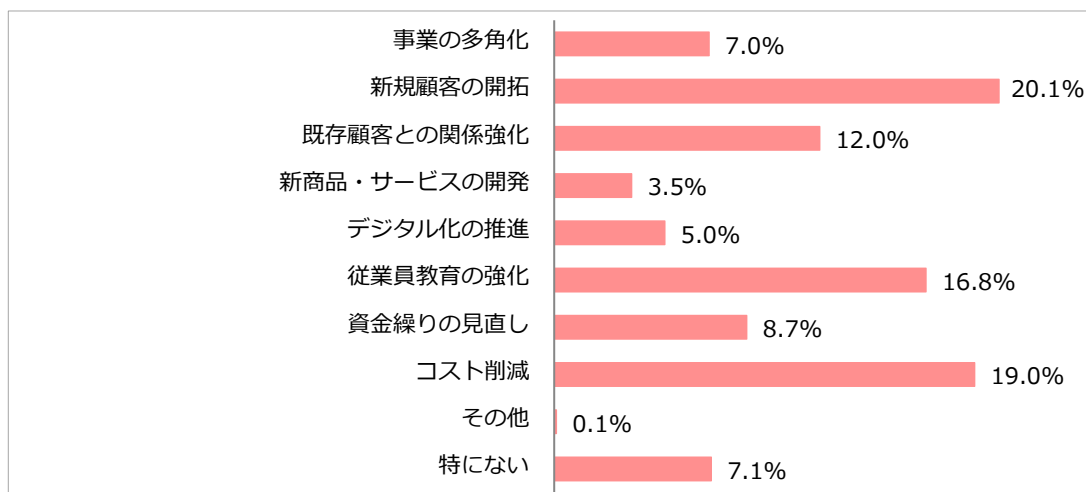
問3 今後の外国為替相場（主に円ドル相場）の貴社にとって望ましい水準について、次の1～5の中から1つ選んでお答えください。また、コロナ禍以降の物価上昇傾向が貴社の経営にもたらす影響について、次の6～0の中から1つ選んでお答えください。



為替について「自社には関係ない」が最多回答、
物価上昇について「悪い影響をもたらしている」が最多回答でした。

問4

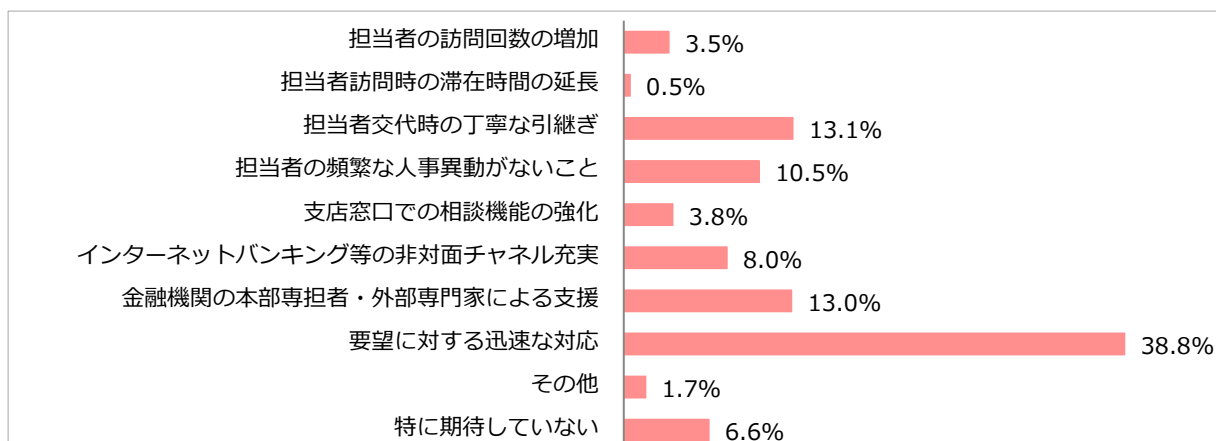
不透明感が増す経済社会情勢を受けて、経営面で今後見直したい取組みはありますか。次の1～0の中から3つ以内で選んでお答えください。



不透明感が増す経済社会情勢を受けて、経営面で今後見直したい取組みについて、「新規顧客の開拓」が最多回答でした。

問5

不透明感が増す経済社会情勢を受けて、地域金融機関の体制面で望むことについて、次の1～0の中から3つ以内で選んでお答えください。



不透明感が増す経済社会情勢を受けて、地域金融機関の体制面で望むことについて、「要望に対する迅速な対応」が最多回答でした。